

地域医療学

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	4 人	

2 教員の異動状況

山岡 泰治（特任教授）（H19.10.1～H20.7.31 特任准教授；H20.8.1～現職）

原岡 智子（特任助教）（H21.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(4) 著 書

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 原岡智子：災害とボランティア，公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター編，健康なくに2011ー災害が問いかける「公衆衛生とは？」，pp.157-161，医療文化社，2011.
2. 原岡智子：その他の疾病対策，柳川洋 編，保健指導ノート2012 公衆衛生の現状，社団法人 日本家族計画協会，(9-1)-(9-3) (9-7)-(9-9),2011.

4 特許等の出願状況

	平成23年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成23年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0件	(0万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	0件	(0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件	(0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成23年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中東遠および志太榛原の両医療圏の病院運営の安定化に向けた研究

中東遠医療圏および志太榛原医療圏は、静岡県内でも特に公立病院の勤務医不足が深刻化している地域である。研究対象地域の公立病院を対象に文献および訪問調査に基づく分析を行い、経営の課題および病院の安定的な運営を図る上で障害となっている要因を分析した。

また、研究成果のアウトリーチに注力し、こうした地域医療の中核を担う公立病院が将来にわたって医療ニーズに確実に応えるためには経営改革が急務である現状を踏まえ、市立御前崎総合病院および公立森町病院のそれぞれの経営改革委員会に委員として参画し、専門的見地から病院の実態に即した助言・提言を行った。

さらに、地域医療を共に支える活動を市民レベルで展開するため、市民フォーラム（藤枝市：平成 23 年 11 月 29 日、袋井市：平成 24 年 1 月 28 日、掛川市：平成 24 年 2 月 4 日）を共催して啓発活動を行った。

2. 地域健康安全に貢献するボランティアの養成・確保の方策に関する研究

厚生労働科学研究である地域健康安全に貢献する災害ボランティアの養成・確保の方策に関する研究に研究協力者として参画している。東日本大震災後、災害ボランティア、特に専門性をもたない多くのボランティアに関する活動や怪我・疾病と医療関係者の関与による対策等について被災地での聞き取り調査を行い、分析結果をまとめて公表した。

3. 緊急被ばく医療に関する人材育成

突発的な災害の発生に対して限られた人的資源や医療設備・資機材を使って適切な医療サービスを提供するためには、有機的に連携できる人および組織の整備が欠かせない。さらに、連携体制を構築するにあたっては、地域の特性を踏まえて現有資源を活かすことが大切である。

こうした観点に立ちながら、緊急被ばく医療を対象として、中東遠医療圏および志太榛原医療圏における実効的な連携体制の確立と専門家育成を目指した活動を行った。

また、平成 22 年度に作成した初期被ばく医療機関の対応マニュアル（標準版）に準拠した被ばく訓練を開催した（平成 24 年 1 月 22 日、市立島田市民病院）。この訓練には静岡県内の初期被ばく医療機関として指定を受けている 4 病院と追加指定を受ける予定の 5 病院との参加を得て、対応の標準化および連携体制の確認を行った。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

地域健康安全に貢献するボランティアの養成・確保の方策に関する研究は、過去に同様な調査がほとんど行われていないこと、また今回の震災が甚大な複合災害であったことから、今後の大規模な

災害時における災害ボランティアの健康管理に貢献することが可能になるものと期待できる。

また、病院運営の安定化に関する研究は、地域の知的拠点であるとともに地域医療の中核的・指導的立場にある本学が地域の求める専門人材育成や安全・安心な地域形成に貢献することに繋がるものである。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 「エコー操作真剣に 医師志す高校生が体験」	静岡新聞	平成 23 年 8 月 24 日
2. 「育て 医学部への志」	中日新聞	平成 23 年 8 月 26 日
3. 「地域医療の在り方探る 藤枝市で市民フォーラム」	静岡新聞	平成 23 年 12 月 1 日
4. 「安心の地域医療を 袋井 シンポジウムに 130 人」	中日新聞	平成 24 年 1 月 29 日
5. 「かかりつけ医持とう 袋井で医療シンポ」	静岡新聞	平成 24 年 1 月 31 日
6. 「症状に応じ適正受診を 地域医療で講演」	静岡新聞	平成 24 年 2 月 5 日
7. 「統合新病院の取り組み紹介 掛川で講演会と公開討論会」	中日新聞	平成 24 年 2 月 5 日
8. 「放射線をテーマに講演会」	SBS テレビ	平成 24 年 2 月 18 日
9. 「イブニング eye 防災最前線」	SBS テレビ	平成 24 年 2 月 22 日